



会長 楠 英夫 幹事 楢戸 憲一

- 例会場 L'AUBE kasumigaura  
TEL.029-875-8888
- 例会日時 火曜日 12:30~13:30
- 事務局 土浦市真鍋1-2-6 金塚ビル3F  
TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
- ホームページ <http://tsuchiura-south-rc.com>
- Eメール [t\\_minami@lapis.plala.or.jp](mailto:t_minami@lapis.plala.or.jp)

2023~2024年度  
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう

2024年5月7日 38号  
2024年4月30日 第5例会報告



地区 HP



地区行事予定

- |                          |          |               |           |
|--------------------------|----------|---------------|-----------|
| 1. 点 鐘                   | 楠英夫会長    | 5. 来賓卓話       |           |
| 2. ロータリーソング斉唱<br>(奉仕の理想) |          | 一般社団法人土浦青年会議所 | 理事長 稲本 創様 |
| 3. 幹事報告                  | 楢戸憲一幹事   | 専務理事          | 小見亘輝様     |
| 4. ニコニコBOXの発表            | 吉田正一副SAA | 地域拡大委員会委員長    | 北島大輔様     |
|                          |          | 6. 出席状況報告     |           |
|                          |          | 7. 点 鐘        | 楠英夫会長     |

(司会進行：山口裕由SAA)

#### 本日のプログラム

稲本修一会員の卓話でございます。

#### 次週のプログラム

5月14日(火)の例会は、海老原一郎ロータリー情報委員長の卓話でございます。

### 出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	3名以上欠席卓	メイクアップ	出席率訂正
名	名	名	%	卓	卓	名	%
87	50	5	60.24	4・6・8	13・14・15 16・17・18	11	73.89

## 【来賓卓話】

一般社団法人 土浦青年会議所 理事長 稲本 創 様



皆様、こんにちは。

一般社団法人土浦青年会議所、2024年度理事長の稲本創と申します。本日は、小見専務、北島拡大委員長と土浦青年会議所についての卓話をいたします。

JCのお話の前に、私事ではありますが、息子のひろが心臓移植の募金活動をさせていただきました際には、土浦南ロータリークラブの皆様から多大なご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。おかげさまでひろは今年小学4年生となり、2つ上の兄と一緒に土浦めぐみ教会付属森の学園というフリースクールに元気に通っております。

さて、まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。私は3月に40歳の誕生日を迎えまして、今年度で青年会議所からは卒業ということになります。ロータリークラブ会員である父のいなもと印刷で働いております。青年会議所に入会したのは2018年。遅かったか早かったかは分かりませんが、密度の濃い6年間を過ごしてきました。JCに入る前は30歳までローターアクトにもお世話になりました。

JCがどんな団体なのか、何をする団体なのか、ということですが、ロータリークラブと同様に一言で説明するのは難しいです。世界中に27万人ほどのメンバーがいるとされていますが、共通の理想として「明るい豊かな社会」の実現を掲げています。明るい豊かな社会とはどんな社会なのか、というのはそれぞれ受け取り方が違うと思いますが、私は「多様性と持続可能性のある社会」と定義しており、それに向けた事業を行っています。

様々な事業を行ううえで、JCが大事にしている3つの信条があります。「修練・奉仕・友情」というもので、青年が集まってトレーニングをし、培われた力を用いて地域にサービスし、それを支える力として会員同士のフレンドシップがあります。JCに入会した動機がどんなものであれ、この3つは1つも欠かすことができないものです。仮に自己成長が動機だとしても修練だけではアウトプットする場所がありません。友情、人脈だけを求めても、JCで本当に絆を深めるのは共に修練してこそ可能になります。

またJCはその活動を通して会員に4つの機会を与えます。先ほどと重複するところもありますが、まず「個人の機会」としてリーダーシップ育成があります。JCは単年度制で、毎年それまでとはまったく違う役職、立場が与えられることで、その立場に応じたリーダーシップを模擬的に実践できる場が毎年与えられるということです。自分がリードされる側にあっても、自分に近いところにいるリーダーから学ぶことができます。次に「地域の機会」ですが、これは学んだこと、トレーニングしたことをアウトプットする場として提供されます。そして「国際の機会」ですが、JCは国際団体であり、望めば世界中のメンバーと知り合いになることもできます。ロータリーも同様かと思いますが、同じ団体に所属するメンバーという共通項があれば、それだけで仲間意識が強くなります。最後に「ビジネスの機会」ですが、これはメン

バー間での仕事の付き合いという面もちろんありますが、経済的に競争力が落ちている日本にあって、新たな価値を生み出して日本経済を再び充実させるという思いも込められています。

さて、土浦青年会議所の現状はどうかということですが、現在の会員数は46名であり、会員減少に歯止めがかかっていない状況です。そして今年度卒業生が15人もいるということで、このままでは40名を切ってしまう未来が見えてしまっています。ではそれをどう打開していくか、ということですが、現在の土浦JCは土浦在住の30代男性が圧倒的に大多数を占めています。先ほど申し上げた、JCが理想とする多様性・持続可能性のある状態とは大きく異なっているわけです。少数派であった20代メンバーや女性メンバー、そして活動エリアであるかすみがうら市、阿見町、美浦村のメンバーをいかに増やしていくかがカギになると考えています。現在、20代や女性会員に関しては年会費の見直しを検討しており、活動エリアについてはその地域に住み暮らすOBや地域青年団体と話し合いながら、何をすべきかを模索しています。

ここからは、今年度の具体的な活動についてお話します。今年度はスローガンを「さあ、行こう！ ～Innovation for The Future～」そして基本理念として「メンバー一人ひとりが誇りを持てるJC運動への挑戦」を掲げております。土浦JCは未来が安泰といえる状態ではなく、未来のために改革が必要です。そのために、制度の見直しを行いながら、所属するメンバーが誇れるような活動、人に勧めたくなるような例会を構築しています。

総務広報委員会では2月例会としてJCの魅力とは何か、JCとはメンバーに何を与えてくれるのかを考える機会を持ちました。今後も5月例会ではJCが提供してくれる機会を最大限に生かすための例会を企画しています。また、なかなかアップデートされていなかった連絡手段や広報手段についても新しい手法を用いるために、現在準備を進めています。

地域拡大委員会としては、先日4月例会を開催し、元お笑い芸人のカラテカ入江さんをお呼びした講演会を開催しました。闇営業騒動で芸能界を引退した入江さんですが、現在は起業家として清掃業で活躍されています。その再起のなかで実はJCが一役買っていたというお話もしていただき、一般参加者の方々にJCのPRをすることができました。

こちらのスライドは少し寂しいですが、7月例会、9月例会、11月例会と怒涛のように事業が控えております。まだまだ構築段階ではっきりとしたことは言えませんが、地域の資源を活用したわくわくするような事業、土浦市以外の地域を舞台とした事業を企画しております。

人財育成に関してですが、3月例会では経済的な豊かさを目指したビジネスセミナーを開催しました。6月例会では国際ビジネスと教育というところにフォーカスして、土浦第一高等学校校長のよぎさん、そして土浦ロータリークラブ会員で土浦JCのOBでもある柴沼秀篤先輩をお招きし、グローバル化する社会で必要とされている教育や人材育成についてディスカッションをする予定です。

青年会議所には出向という制度もあり、茨城ブロック協議会、関東地区協議会、日本青年会議所と、望めばさらに広範囲での活動や人脈形成が可能です。視野を広く持つことにもつながり、出向での経験が土浦青年会議所の発展にも寄与します。私は去年日本青年会議所の褒章を担当する委員会に出向しましたが、そこで学んだ良い事業の基準はJCの事業だけでなく、会

社経営にも有用な学びでした。

土浦青年会議所では新入会員を募集しています。20歳から40歳までの方なら入会できるので、ロータリーにはまだ早いかなという青年をぜひご紹介いただければと思います。JCでしか経験できない学びや出会いがあります。能動的に行動する仲間を増やし、この地域を明るく豊かな社会に変えていけるような運動をこれからも続けてまいります。

